

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位(時間)	科目責任者
ヘルスアセスメント 方法論Ⅱ	1年次 後期	必修	講義	1単位(30時間)	小林 大輔 ※
授 業 概 要					
看護の対象を看護形態機能学の視点から理解できるように、対象者の健康状態(行動)を客観的・主観的に明らかにし、その状態は日常生活にどのような影響があるのか、アセスメントする能力(知識・技術・態度)を習得する。特にⅡでは、心理・社会的側面のをどのようにアセスメントするのかを学ぶ。ここでは、さまざまな設定事例と『関わり』ながら、ヘルスアセスメント方法論Ⅰの身体的側面の情報も併せ、ヘルスアセスメントの確立を目指す。また電子カルテから対象者理解のための情報収集方法・態度も学ぶ。					
到 達 目 標					
1. 人間は身体・心理・社会的側面が密接に関連していることを理解できる。 2. 人間を身体・心理・社会的側面から、アセスメントすることの必要性を理解する。 3. 看護過程におけるヘルスアセスメントの位置づけを理解できる。 4. 電子カルテからの意図的・効率的な情報収集技術・態度を習得する。					
実務経験のある教員					
小林 大輔、鹿島 ゆかり：看護師としての実務経験をふまえてヘルスアセスメントを教授する。					
回	学 習 内 容				担当教員
1-15	1. ヘルスアセスメントの概要(看護過程における位置づけ) 2. 事例解説と事例演習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「息をする」の心理・社会的アセスメント</li> <li>・「生命維持」の心理・社会的アセスメント</li> <li>・「動く」の心理・社会的アセスメント</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記各々に対応したヘルスアセスメント方法論①+②を利用した事例演習</li> </ul> 3. 電子カルテからの対象理解				小林 大輔 ※ 鹿島ゆかり ※ 他
学 習 方 法					
講義・グループワーク・紙上事例展開(演習)・Medi-EYE					
評 価 方 法					
[評価方法] レポート課題・科目修了試験					
先 修 科 目					
なし					
教科書、参考書					
[教科書] 日常生活行動から見るヘルスアセスメント 看護形態機能学を用いて 大久保暢子編集 <span style="float: right;">日本看護協会出版会</span> 看護 形態機能学 生活行動から見るからだ 菱沼典子 日本看護協会出版					